

◎適期播種・適期防除（赤かび病防除は必須）・適期収穫に努めましょう
◎玄麦タンパク質含有率12.5%以上を目差しましょう

1. 作業の要点

2. 生育の目安

3.播種

(種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう)

- ・播種適期より早い播種は、過繁茂になりやすく、凍霜害や倒伏のおそれがある。
- ・播種の早限は11月15日とする。

5.肥培管理(土壌改良資材や堆肥を施用し、土づくりに努めましょう)

①施肥基準

注1)ほ場の地力、麦の生育状況等により、施肥量は加減する。
注2) ()内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に土壌診断を実施する。

②パン小麦専用肥料の施肥基準

▼土壤改良資材

注)前年にpHの低下による酸性障害がでていたほ場には、苦土石灰を100～150kg/10a程度施用する。
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要。

6. 防除管理（農薬の飛散防止に努めましょう）

①種子消毒

注)薬剤はいずれかを使用する。

②病虫害防除

①②③について記載している薬剤の使用基準は令和7年8月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用する。

**◎麦収穫後は鳥獣害対策、雑草・害虫対策、土づくり対策
のため速やかに耕起しましょう!**

4. 栽培のポイント

①排水対策

播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置するとともに、スタブルカルチやサブソイラー、弾丸暗きを施工する

播種後対策：ロータリー幅ごとに深さ15～20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する

②土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6～6.5を目安とする)

③適切な肥培管理

適正な施肥量と適期の追肥

④ 雑草の体系防除

播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底

⑤病害虫の防除

赤かび病の適

収獲の適正化

適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエハグラ)の混入防止

③雜草防除

注1) 早播さのほ場や初期除草剤の散布が遅れたほ場、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逃さないように、天候を見ながら中期除草剤により雑草防除を行う。

●各雑草に対する中期除草剤の効果

注1) ○:効く △:多少は効く ー:登録なし 注2) SU抵抗性スズメノテッポウに対しては効果が劣るため、非選択性除草剤と土壌処理剤(初期)、土入れなどの
体系処理を行う。

●主要畑地雑草

作成：2025年8月

排水対策・開花期追肥を徹底し、単収向上と高品質化を図りましょう！